

平成20(2008)年8月10日

第 38 号

発行人 世田谷稲門会 一夫彦行
編集人 岩上健邦明秀
集 寺島村内 大

事務局 〒156-0043
東京都世田谷区松原5-19-4
横田吉明方
TEL/FAX 03-3324-7046

世田谷稲門会会報

魅力あふれる活動に尽力 若年層・女性層の会員増を

世田谷稲門会会長 岩上 健一

世田谷稲門会も発足して十六年目に入りました。その間多くの役員、会員の皆様の努力の積み重ねのお陰で現在では大変充実した楽しい会となっております。喜びの限りです。部会、ブロック会を通じて会員同士



しみが又ひとつ増えます。もっともつと多くの校友に会員として参加していただきたいと思っています。会員、一人一人がこの世田谷稲門会を上手に利用して大いに楽しんで頂きたいと思います。

現在世田谷稲門会の会員数は四百名弱です。世田谷区には卒業生が一万二千人もいると言われております。もっとも会員数を増やし更に充実した魅力あふれる会にしたいものです。

の親睦も深まっています。何より部会、ブロック会の活動が全体的に活発となり安定化して来たことが目立ちます。

今年新たに「芸術、芸能鑑賞部会」、「パソコン部会」が発足する予定で、会員の皆様の楽

手を掛けているのは現在の数を維持するのも難しいし、部会やブロック会を通してもっと積極的に会員の増加を図っていく必要があるかと思えます。若年層、女性層の掘り起こしは如何でしょうか。今後の大きな課題

新執行部体制スタート

新会長 岩上健一氏

幹事長 麻生卓司氏 事務局長 横田吉明氏

五月二四日に開催された第十七回定時総会で全役員任期満了に伴う役員改選で新会長に岩上健一氏(昭三六法)、新幹事長に麻生卓司氏(昭三四政経)、新事務局長に横田吉明氏(昭三八商)の新体制が承認された。

納涼会は隅田川屋形船で

九月十三日(土)に開催

平成二十年度納涼会は暑さも一段落すると思われる九月

十三日(土)午後五時半に総武線・都営地下鉄浅草橋駅から徒歩三分の船宿「井筒屋」の屋形船を借りきり、江戸情緒たっぷりの隅田川で舟遊びを楽しむことになった。

ベイブリッジなど東京湾の新しい夜景を眺めながらビール片手に船頭の作るてんぷら料理を楽しんでください。

船内ではカラオケの設備も



完備しており、のど自慢の方々は日頃の研鑽成果を披露していただけます。暑気払いに多くの方の参加をお待ちしています。会費は一万円。

の一つだと思えます。

一二五周年記念事業の一環として行われた募金活動には当世田谷稲門会としては一三

五万円、法人個人併せると二億

四九〇〇万円(達成率一一四%)

と大学の期待に充分応えることができ、貢献度は抜群でした。大学からもその貢献に対して「ゴールドフラッグ」を授与されたことは記憶に新しいことです。

会則のひとつに世田谷区が地域活動に寄与する事と謳っておりますが、残念ながら地域

貢献までは手が届いていないのが現実です、これも今後の課題の一つです。皆様のお知恵を拝借しながら前向きにとり組んでゆきたいと思えます。

さて今回、計らずも会長の大役を拝命致しました。微力ながらも更なる世田谷稲門会の発展に向けて力を尽くして行く所存です。会員の皆様の御協力と御支援をよろしくお願いいたします。誰もが楽しめる魅力あふれる世田谷稲門会を目指しましょう!

平成二十年度世田谷稲門会 総会開催(五月二四日)

第十七回定時総会は、平成二十年五月二四日(土)午後五時からこまばエミナースで九八名が参加して盛大に開催された。総会開催に先立ち、川村事務局長よりこの一年間の会員物故者、左記六氏の冥福を祈り、黙禱を奉げた。

長(副会長)、横田吉明事務局長(副会長)ほか新役員四名を含めた新体制が決まった。

田岡俊次氏が講演

第二部では朝日ニュースターコメントーターで軍事評論家の田岡俊次氏(昭和三九年



田岡俊次氏

政経卒)に『日本周辺の軍事情勢』の演題で講演していた。

第一部の総会は、柏副会長の司会、土倉享一議長の進行で、議案一の平成十九年度事業活動報告と決算報告の承認及び議案二の平成二十年度事業計画案と予算案承認の議事が行われ、何れも満場一致で承認された。

議案三の役員改選については全役員任期満了に伴い四月一四日の常任幹事会で選任された役員候補者が承認され、岩上健一会長、麻生卓司幹事

中国も韓国もリアル・ポリテイクスの観点から「北」の崩壊を望んでいない、中国の軍拡説はペンタゴンの予算獲得の常套手段である「過大見積り」によるところが大きい、近年は日米関係よりも中米関係の方が親密であ

る等々、軍事力、経済関係などを数字を挙げて説明し、未だに冷戦終結の感覚に乏しい我々に客観的な情報を提供していただいた。

第三部の懇親会は、パーテイー会場へ移動し、兼子信子、

寺島邦夫両幹事の司会で進行した。土倉享一会長の挨拶に続き来賓・新入会員紹介、上田忠雄会員(昭二六理工)の乾杯で開宴。

懇親会は例年通りバイキングスタイルの料理と飲み放題

とで大いに盛り上がった。締めくくりは、若手会員佐伯憲一氏(平成十年文卒)の元気の良い手捌きとリードで校歌斉唱となり、和やかに散会となった。

世田谷稲門会・平成19年度決算及び20年度予算

単位：円

項目	19年度予算	19年度実績	20年度予算	備考
前年度繰越	① 693,638	895,629	895,629	
年会費	② 1,200,000	1,140,000	1,083,000	400名目標
総会費	ア 700,000	700,000	745,000	
納涼会費	イ 1,000,000	800,000	528,000	
新年会費	ウ 850,000	850,000	929,000	
ア~ウ小計	③ 2,550,000	2,350,000	2,202,000	
組織強化補助金	エ 335,000	400,000	391,000	
預り金	オ 0	0	1,000	
雑収入	カ 0	0	0	
利息収入	キ 1,200	400	1,209	
エ~キ小計	④ 336,200	400,400	391,209	
収入合計①②③④	4,779,838	4,786,029	4,571,838	
総会費用	あ 700,000	700,000	592,050	
納涼会費用	い 1,000,000	800,000	514,628	
新年会費用	う 850,000	850,000	783,800	
あ~う小計	i 2,550,000	2,350,000	1,890,478	
総会等予備費	え 50,000	100,000	0	
総会等講師謝礼	お 200,000	200,000	175,000	
え~お小計	ii 250,000	300,000	175,000	
諸経費				
事務用品費		80,000	100,715	幟新調、コピー用紙、インク等
通信費		200,000	187,900	各種案内送料等
会報作成費		500,000	499,800	34・35・36号発行
事務運営費		100,000	91,320	事務局・広報の運営費
部会・ブロック会援助費		100,000	0	
会議費		300,000	253,934	幹事会、会長・副会長会
校友会23区活動費		200,000	157,240	
HP関連費		60,000	60,000	
125周年寄付金		100,000	100,000	実績累計1,350,000円*
15年誌作成費		0	301,350	作成18年度。支払19年度
名簿作成費		100,000	0	
雑費		80,000	60,463	コピー、送金料、運搬費等
諸経費小計	iii 1,820,000	2,010,000	1,812,722	
支出合計i・ii・iii	4,620,000	4,660,000	3,878,200	
次期繰越金(収入-支出)	159,838	126,029	693,638	
合計	4,779,838	4,786,029	4,571,838	

* 19年度次期繰越金内訳・小口現金24,963・普通預金508,160・郵便貯金160,515

世田谷稲門会役員・常任幹事

役職	担当	氏名	卒年・学部
会長(新)		岩上 健一	昭36 法
常任幹事(再)			
副会長(再)	幹事長(新)	麻生 卓司	昭34 政経
常任幹事(再)			
副会長(新)	事務局長(新)	横田 吉明	昭38 商
常任幹事(再)			
常任幹事(再)	事務局(新)	島田 實	昭40 法
常任幹事(新)	事務局(新)	浜田 康夫	昭34 政経
常任幹事(新)	事務局(新)	加藤 隆夫	昭34 法
副会長(再)	23区統括(再)	鈴木 宏治	昭38 商
常任幹事(再)			
常任幹事(再)	23区担当(再)	岸田 正和	昭34 商
副会長(再)	ブロック総括(新)	柏 良子	昭31 政経
常任幹事(再)			
常任幹事(再)	ブロック担当(再)	兼子 信子	昭43 教育
常任幹事(新)	ブロック担当(新)	山崎江代子	昭42 文
副会長(再)	部会統括(新)	川村 保夫	昭34 商
常任幹事(再)			
常任幹事(新)	部会担当(新)	蒲原 信一	昭33 政経
常任幹事(再)	広報統括(再)	寺島 邦夫	昭38 政経
常任幹事(再)	広報担当(新)	荒井 清	昭40 政経
*	広報担当(再)	大内 秀行	昭39 法
*	広報担当(再)	岩村 明彦	昭39 政経
監事(新)		江原 利次	昭31 商

*は常任幹事ではありませんが広報担当として活動

新幹事挨拶

浜田康夫



初めて事務局の仕事をするのになりましたが、楽しい世田谷稲門会のために役に立てばと思います。ブロックは玉川会です。よろしく願います。

山崎江代子



卒業してから四〇年経ちました。ここでまた世田谷稲門会を通して

て母校のために少しでも役に立てれば幸いです。至らないことが多々あることと思いますが、どうぞよろし

くお願いいたします。
加藤隆夫



ワセダとの関連は卒業後もいろいろと縁の深さに幸せを感じてきました。稲門会入会以降、更に濃い結び付きを実感しています。今後しばらくは諸幹事の方々のご指導とご援助により、皆様に些かなりともお役に立つことが出来れば幸と思っております。

蒲原信一



仕事を終了後稲門会に加入、「カヲケ」、「囲碁」など四つの部会で楽しんでいたところ、鈴木副

会長殿より本部の仕事も少し手伝いなさいとのご下命がありました。力不足と思いましたが今迄のご恩返しと考え最後のご奉公をすることにしました。より楽しく充実した会になるよう頑張ります。

新部会「芸術・芸能鑑賞部会」

七月十四日に開催された幹

事会で新たに「芸術・芸能鑑賞

部会」(代表・鈴木宏治氏)と「パ

ソコン部会」(代表・荒井清氏)

の二部会が承認された。

詳細は部会のページを参照

ください。

—— 母 校 の 今 —— 第12回

西早稲田キャンパス 「C棟」只今建設中2009年完成予定

梅雨の晴れ間の7月10日(木)午後、西早稲田(本部)キャンパスを訪れた。地下鉄東西線・早稲田駅から歩いて5分。昨年、大改修を済ませた大隈講堂前広場に向かう。仰ぎ見る大隈講堂は外形はそのままだが、外壁は全面的に張り替えられ、極めて明るい肌合いに変身していた。

まず大隈講堂右手の「大隈記念タワー」(26号館)の16階にある校友サロンを訪ね、サロンの広い西側の窓から西早稲田キャンパス全体の写真を数枚撮る。帰り際、前回の取材でもお世話になった受付の橋本さんから、よく冷えた“おいしい天然水”をご馳走になり、感謝感激！ホッと一息入れた後に、正門に向かう。

正門の階段を昇ると、大隈候銅像の右手奥の旧商学部跡地に、創立125周年記念事業の一環として建設中の新校舎・「西早稲田キャンパスC棟(仮称)」(写真)が一際大きなその全容を現していた。新校舎の完成は来年09年の予定だというのが、外観的にはほぼ完成した新校舎の建物は、地上14階・地下2階。ネットワーク型授業の拠点として、主に商学系と国際教養学系が使用するという。

新学期が始まってはや4カ月が過ぎた構内は、2月の入試から4月の新学期にかけての、ワセダ独特のあの“人間ゴチャ混ぜ”状態から一転、落ち着いた雰囲気を取り戻していた。60年安保で学内が揺れ動いていた頃の校内の風景を思い浮かべながら、一時間程、新校舎などを巡りながらカメラのシャッターをきった。「今日は雨に降られずに無事に取材できた。それにしても早稲田は女子学生が増えたなあ。校内の風景もどんどん変わっていくようだ」。そんな感慨を胸に、大隈記念タワー前バス停から渋谷駅前行きの都バスに乗り込み、暮れなずむキャンパスを後にした。

(大内 秀行/記・撮影)



部会だより

芸術・芸能鑑賞部会

かねて会員の要望が多かった「鑑賞部会」が発足しました。この会は日本の伝統文化・芸術・芸能や、世界の芸術・音楽に親しみ、幅広く接する機会を提供するもので、個人ではイベントの情報入手が難しいため、良質な鑑賞に堪えうる情報を会として会員の皆様に定期的にお知らせします。

世界の民族が生み出した優れた文化・芸術に接し、より豊かな精神生活の充実を図り、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とします。対象分野は、歌舞伎・文楽・能狂言・邦楽・オペラ・ミュージカル・舞踊・落語・演劇などと、音楽ではクラシック・ジャズ・ポピュラー・シャンソン・カンツォーネ・タンゴ・ラテン・ハワイアンなど多岐にわたります。

世田谷稲門会には世界的なオペラ歌手の岡村喬生さんをはじめ、ハワイアンの露木茂さん、ジャズの寺島邦夫さん、シャンソンの花田玲子さんなど各分野の専門家が在籍しています。これらの皆様のご協力を得て、楽しい「鑑賞部会」にしたいと思えます。6月27日に「発足会」を行ない、既に22名が入会しました。年4回程、各分野の長期的なご案内をする予定です。入会希望者は是非ご連絡下さい。当面は通信費年千円を必要とします。(振込口座開設中)

◇世話人 柏良子、麻生卓司、鈴木宏治

◇申込先 鈴木宏治 TEL&FAX3307-2201 携帯090-2520-9576
(代表世話人/鈴木 宏治)



パソコン部会

3年半前から有志で開催していたパソコン勉強会を「世田谷稲門会パソコン部会」として衣替えし、本格的なパソコンの勉強会を開催することになりました。参加ご希望の方は奮ってご入会ください。パソコン部会の開催場所は松涛教室(渋谷区松涛2-14-12シャンボール208)。開催日時は毎月第1、第4火曜日(雨天、日曜祝日に関係なく開催、但し年初3日間を除く)14時~16時。教室にはモニター1台と2台のパソコンが用意されています。ノートパソコンをお持ちの方にはご持参いただいています。現在の会員数は25名で、あと10名程度参加可能です。講習内容はインターネット、メール、デジタルカメラ、ワード、エクセル、ホームページ作成、その他です。前半1時間は共通課題の講義、後半は質疑応答、技術的なお手伝いです。

Fax3703-4228または bnew@setagayatoumonkai.com

(連絡先 世話人/荒井 清)

食べ歩き

(1)2月23日、第35回例会を開催。参加者34名。今回は東銀座の「花蝶」で会席料理を堪能した。岸田正和氏の司会で進行。初参加の薄井好雄(昭47商)夫妻、梅田和子(昭47文)、栗山佳三(昭27商)、溝上英男(昭23法)各氏のユーモラスな自己紹介の後、大須賀肇代表世話人の挨拶並びに会務報告があり、岩城好宏氏の発声による乾杯で開宴。数奇屋造りの料亭の佇まいはそのままに贅を尽くした和風建築とそこに見事に調和した現代アートの数々を眺めながら閑静な雰囲気の中、料理の美味に舌鼓を打ち、日本酒やワインに酔い、歓談は弾み、最高の悦楽であった。鈴木宏治幹事長、水島豊氏、武居達治早大参事より報告や話題提供等が続き大いに盛り上がった。柏良子副会長から「この会は女性の参加が多く大変楽しい会なので、今後女性の参加が益々増えることを期待したい」との中締めの挨拶があった。



(2)4月6日、第36回例会を開催。参加者31名。今回は井の頭公園の緑を満喫でき、どこか自然の恵み豊かなトスカナ地方の田園をしのばせるイタリアンレストラン「リストランテ・プリミ・パチ」で柏良子副会長のユーモラスな司会により進められた。熊本昭二氏の乾杯発声で開宴。シェフお勧めの現代風にアレンジしたトスカナ地方料理を堪能、上質のイタリアンワインに酔い、会場の雰囲気は最高に盛り上がった。125周年募金で世田谷稲門会に対する依頼額は各稲門会最高の2.19億円で、その達成率が114%になったことに話題の花が咲き歓談は弾んだ。昼食会后、各自三々五々、井の頭池の水面に映える爛漫の染井吉野等の桜花を觀賞しつつ、広大な公園を散策し花見を楽しんだ。

(大須賀 肇/記)



写 真

写真部会は6年目に入りました。会場は「東京農大校友会館」に定着し、また開催日は毎月第3木曜日に決めて開催しています。2月、8月は休会で年10回の開催です。今年も恒例の1月の新年会会場での第4回目の写真展が実施されました。今回は13名、22点の作品の展示となりました。年々レベルが上がり今年は見応えがあったと思います。この会に入る皆さんは「作品を作る」という気持ちで撮影しますので、内容が良くなってきています。旅行の作品も多くありますが、これらも内容が違ってきています。それと作品の仕上がりが良くなってきています。特にデジタルカメラで撮影し、自分でプリントをして来られる方は確実に良くなってきています。ほぼ毎月例会が開催されますので、作品を発表するのは大変だと思いますが、皆さん毎回10枚以上の作品を披露されています。皆さん作品作りを目指しておられるので、私からはデジタルプリントの仕上がりに関する事柄を作品例でお見せして、プリントの良し悪しが作品の評価を決める事を理解頂いています。

今後の例会の定は9月18日(木)、10月16日(木)、11月20日(木)、12月18日(木)です。なお例会は午前10時開催に変更し、終了後は1階のレストランで写真に関する話題で盛り上がります。

(種谷 鴻成/記)

ゴ ル フ

暑い毎日が続いておりますが、当部会員の皆様は日ごろの運動不足解消にグリーンでのプレーを楽しんでいます。今シーズンの幕開けは桜の満開の下、中津川カントリークラブで迎え、大月カントリークラブでの第2戦まで終了し、それぞれ多数のご参加を得てゴルフの楽しさを満喫いたしました。暑さの厳しい7・8月は休養と調整に当てていただき、来る9・11月の残り2戦に挑戦していただきたいと思ひます。

さて、今回は既に行われました2回のコンペの様様をご報告いたします。

本年度開幕戦の第54回コンペは、4月3日中津川CCに於いて快晴のもと気温20度を超える絶好のお花見ゴルフとなり、参加者も45名を数え優勝を目指しスタートして行きました。そして各クラスの栄冠を勝ち得ましたのは次の方々(敬称略)です。

優勝者 総合：長谷川宏、Gシニア：森戸正力、
シニア：岩城好宏、レディス：竹入啓子

続いて第55回は6月13日大月CCに於いて37名が参加、ゴルフ日和となった梅雨の晴れ間に新緑の映える自然とともにプレーを楽しみました。今年度も本人のスコアがプレー費に換算される「ワンストロークプラン」の適用があり、その節約にも挑戦した一日でしたが、勝利に輝きましたのは次の方々でした。

優勝者 総合：菊池吉晏、Gシニア：平井恒夫、
シニア：伊藤誠三、レディス：竹入啓子

第55回大月CCコンペ表彰及び懇親会に際し時間の制約により、優勝者スピーチを割愛させていただきましたこととお詫び申し上げます。

さて、絶好のシーズンとなる秋のコンペ開催予定が次の通り決定いたしましたので皆様のご参加をお待ちしております。

第56回 9月19日(金)：ファイブハンドレッドクラブ(裾野)

第57回 11月7日(金)：飯能GC

(熊谷 慶紀/記)



(左から 竹入さん、森戸さん、長谷川さん、岩城さん)



(左から 伊藤さん、竹入さん、菊池さん、平井さん)

ボウリング

当部会は平成8年9月発足、翌9年7月渋谷稲門会と合同開催を始めて以来、今年7月の例会で記念すべき125回目を迎えました。今後とも継続して世田谷オークラブオウルにおいて毎月1回投球を楽しんでまいりたいと思ひます。最近の実績は次の通りです。

3月30日(日)、参加者12名。162点・江口力、159点・天野善弘、131点・武藤哲

江口さんが絶妙の制球力で、天野さんもスピード豊かな投球で夫々持ち味を発揮、共にターキー(3連続ストライク)を出してハイレベルでのシーズンゲームで高得点。

5月11日(日)、参加者14名。167点・佐山順孝、149点・高橋善一郎、148点・天野善弘

実力派の佐山さん、10フレーム中8フレームをミス無しの完璧な投球、お見事！高橋さんもスピードを抑えた頭脳的な投球で、天野さんも安定した正確な投球で共に高得点。

4月、6月は月後半の日曜日が全て団体貸切のため予約をとれず休会。現在、例会は午前11時より3ゲーム制で実施しております。1レーン2~3名で投球、所要時間約1時間半、手頃な運動で健康には最適。経費もゲーム代、貸し靴等含めて2000円程度。どなたでも手軽にできる格好のスポーツです。ご参加をお待ちしております。

(武藤 哲/記)

釣 り

釣りを知らずに老いるのは、モッタイナイ。青く広き海、清く静寂の溪流、のんびりとした田園の小川に糸を垂れる。突然の当り、釣り上げられるかの緊張感、新鮮な獲物の美味、包丁さばきの楽しさ、知人に配る満足感など数えきれない楽しみが釣りにはあります。

春の乗り込み鯛は、4月29日土肥とびしま丸より4名参加、鯛釣り道具を新調した高橋さんのみが4枚を釣り上げる。乗り込み鮒釣りは、4月19日北浦の細で48斤の大鯉を釣り、4月29日佐原水郷にて27斤真鮒をはじめ中小鮒が程ほどに釣れた。6月1日下田沖へ須崎港よりイサキ試釣り。2名参加、良型31匹、他タカベ、メバル釣れた。イサキは最高美味。6月8日茅ヶ崎沖ちがさき丸にてキス仕立船にて11名参加。シコ鯛、ヒイラギに邪魔されて釣果今ひとつ上がらず、30匹が竿頭、しかし鯛を餌にヒラメ45斤が1枚揚った。



6月15日銚子沖へ友丸よりアジ、花鯛釣り。6名参加し、アジ30匹〜50匹、花鯛20匹弱。海は荒れてうねりに船酔い気味。7月1日江戸川国分台手長エビ釣り、3名参加、川・湖沼担当の近堂さん30匹以上釣るも時期早との事。7月6日下田沖イサキ釣り。光明丸にて5名参加、波もなく晴れ良好。イサキ型良く国沢、金子さん共に36匹。



今後の予定。ハゼ、青物のシーズンに入る。沖釣り8月23日松輪沖アジ、鯖釣り。9月27日イナダ釣り。10月19日門前仲町富士見よりハゼ天ぷら船一般参加可。木更津近辺。

(柴田 昇/記)

囲碁将棋

「ふじみ荘」合宿記

前回までは年2回湯河原杉の宿で囲碁の合宿をしていたが、囲碁のメンバーもだんだん年をとってきたので、今回からは近場での合宿に変えようと皆で手分けして合宿場所を探したところ、齊藤5段が世田谷区内の上用賀に所在する社会福祉法人老人休養ホーム『ふじみ荘』を見つけた。早速齊藤5段を含む6人の世田谷囲碁部のメンバーが下見の結果、ここは手入れも行き届いており、なによりも清潔感があり、宿泊施設の外、大浴場、食堂（酒も飲める）舞台付大広間の外、囲碁将棋室も完備しており、別部屋での囲碁の会も開ける。料金も低廉であり、我々の目的を充足するのに十分であるとの認識のもと、6人全員の一致で今後ここで碁会を開くことに決定した。

さて、当日、6月27日（金）午後3時に皆でふじみ荘に集まる。総勢10名。真っ先に、大浴場に入る。時間帯がいいのか風呂はがらがら、人影まばら。ゆっくりと風呂につかる。宿泊以外の入場者は4時がクローズなので既に大半が帰り、我々と2、3組の泊り客を除いては殆んど人がいない。早速、部屋に置かれた碁盤で10人総当りの対局を開始。2、3局打って6時より夕食の宴が始まる。料理もまずまず。結構品数も多い。まずもって、ビールで乾杯、酒も飲める。酔えば、舌が自然と饒舌に。話に花が咲き、気持ちも和む。2時間ほど過ぎたころ、思い出したように碁吉達は又碁盤に戻る。初めての場所でもあり、12時半頃まで打ち、床に付く。翌朝は6時ごろ目を覚まし、まずは風呂へ。朝風呂も、又、快なり。風呂から上がると、すぐ碁盤へ。8時の朝食前に1、2局打つ。結局、お昼まで10局のノルマを達成し昼食を食べて、散会となった。

(矢田 廣/記)

ウォーキング

当部会は、会員の健康促進と相互の親睦を深めながら、郊外の名所巡りや、時には江戸東京の歴史を訪ねる楽しいウォーキングを毎月行っています。途中で休憩を取りながら午後3時間程度の散策ですから、ぜひ気軽に参加してみてください。

連絡先：代表世話人：江原利次 電話&FAX5760-7118
参考までに、今後のウォーキングコースを紹介します。

- 9月14日（日） 愛宕山周辺を歩く、芝公園～増上寺～愛宕山～NHK
- 10月12日（日） 湘南台駅～円行公園～大庭城跡公園～大庭遊水地
- 10月22日（水） 学芸大学周辺～すずめのお宿
- 11月9日（日） 横須賀巡り、猿島～戦艦三笠見学

(江原 利次/記)



カラオケ

第34回カラオケ部会を6月22日(日)、若林のカラオケ喫茶「花の木」で開催しました。今回は初めての試みとして下北龍一先生の指導で勉強会を2時間みっちり行いました。下北先生は「熱海慕情」で知られていますが、レッスンプロとしても活躍、主に杉並、世田谷、中野等で17の教室で約180名の生徒の指導に当たっています。

当日は時々雨足が強くなる梅雨の真っ只中にもかかわらず17名の部員が熱心に指導を受けました。先ず発声練習を行いました。練習曲は「千の風になって」。一小節ずつ丁寧に繰り返し教わり、特に息継ぎ(ブレス)、間の取り方(休符)、歌い方としてはしゃくり(下からゆっくり)、のびやかに、心地よく上昇、しっかりと収める、さび(聴かせどころ)等のテクニックを教わりました。最後にレーザーカラオケを使って締めくくりました。2時間休みなく勉強したので、皆さん疲れたようですが、一方ほっとしたり、また覚えたという達成感もあったのではないのでしょうか。

下北先生が「熱海慕情」他2曲、東京大会で4位に入賞した「花の木」のママ清原さんが大ヒット中の秋元順子の「愛のままで」を熱唱しました。3時半から各人が好きな歌を披露、早速習いたての「千の風になって」を忘れないうちにと何名かが歌い、楽しいひと時を過ごしました。最後に全員で「校歌」を斉唱して散会しました。次回は7回目のカラオケ旅行を9月に予定しています。なお、下北教室でカラオケを習いた方はカラオケ部会までお申し出下さい。

(連絡先 清水:電話3421-2624)
(清水 明雄/記)

麻雀

【1】4月12日(土)、春風薫るうらかな午後のひととき、26名の善男善女が小田急線祖師谷大蔵駅徒歩3分の麻雀荘「天狗」(以下会場は同じ)に集い、口と技との総合力を競った。試合は初回から大量億点でトップに立った吉村善智氏が、出場している奥様の忠告を無視して最終回を最小の失点に抑え、2位以下をダブルスコアで突き放し優勝した。優勝:吉村善智、準優勝:橋本大道、3位:武田一成、4位:池田良夫、5位:郡山弘文、6位:田島功統

【2】5月18日(日)、夏を思わせる暑い午後、腕と度胸と愛敬に自信のある紳士淑女26名が集い熱戦を展開した。試合はこれまで実力より友好を重視していた長谷川氏が本来の闘争心を発揮し、強豪吉村夫妻のワンツーフィニッシュを阻止し初優勝を遂げた。優勝:長谷川義樹、準優勝:吉村善智、3位:吉村登喜子、4位:郡山弘文、5位:江口力、6位:池田良夫

なお、試合終了後、恒例の年次総会を開催し、規約の改正、決算承認と以下の当部世話人を選出した。「代表」下谷内堯(重任)、「会計」山本英親、「監査」阿部信之、「企画」江口力、河村卓郎、脇坂元彦(以上新任)、国澤俊一(重任)、「広報」熊本ちずる(新任)

【3】6月14日(土)、穏やかな初夏の昼下がり、麻雀が飯より好きな温厚な男女が25名集い熱戦を展開した。試合はこれまであと一步のところまで優勝を逃し続けていた橋本氏が天敵の各氏を抑え、悲願の初優勝を遂げた。優勝:橋本大道、準優勝:郡山弘文、3位:秋元孝禧、4位:国澤俊一、5位:河村暉子、6位:大矢和親

(下谷内 堯/記)

ブロック会だより

キャロット

6月7日(土)午後2時~4時、三軒茶屋のステージPFで第1回キャロット会主催の音楽会を開催しました。花田玲子さんはピアノ弾き語りで「愛の賛歌」「聞かせてよ愛の言葉を」「めぐり逢い」、そして発売されたCD「Once Again」の中から「街

「バラ色の人生」「枯葉」「パリの屋根の下」「黄昏のビギン」を唄っていただきました。東直彦さんは「オーソレミオ」「帰れソレントへ」「フニクリフニクラ」等熱唱されました。



花田玲子さん



東直彦さん



萩原健さん

萩原健さんが「星降る街角」を唄われ、しばし水原弘の話で盛り上がりました。あっという間に時間が過ぎ、もっと聴きたかった。花田さん、東さんはさすがプロと賞賛の声があがりました。また萩原さんはひたむきさと威厳を感じられたとのメッセージがありました。

来年6月頃、新しい企画の音楽会を開催したいと思います。皆様のご参加を期待しております。

(富塚 兆彌/記)

西 北

6月6日(金)17時より早稲田の大隈記念タワー15階「西北の風」にて懇親会を開催しました。参加者23名。冒頭全員で去る2月に亡くなられた後醍醐院良一氏に黙祷を奉げました。今回は岩上健一氏の世田谷稲門会会長就任のお祝いを兼ね、熊谷慶紀氏(昭38政経)より「アラブ駐在体験記」と題して講演を頂きました。今石油急騰が諸物価高をもたらす国民生活を圧迫しておりますが、当時は1バレル1ドルの時代であったとの事。入社間もない昭和41年から3年間のサウジアラビア勤務、その後イ・イ戦争真最中のバグダットでの5年間、さらにはその後4年間の事後処理・クレーム等で日本と行ったり来たり、何と通算12年間にわたるアラブ体験談をお話して頂きました。

- サウジアラビアの歴史、建国と映画でお馴染みのアラビアのローレンス。
- 駐在中の第3次中東戦争とイ・イ戦争で大変怖い思いをされ、仕事は水処理専門の会社で、折角の工事が破壊されたなどの苦労話。
- 一夫多妻制での現地人の一見羨ましそうに見えるが、複数の妻を平等に扱う大変さ。
- 禁酒国でのお酒の調達方法、作り方。——等々興味尽きないお話を伺うことが出来ました。

(松浦 晋三郎/記)

け や き

洞爺湖サミットから数夜明けた7月吉日、知的好奇心旺盛な21名が経堂の和食店に母校大学院法務研究科教授の浦川道太郎先生(司法試験委員、母校図書館長、母校初代法科院長を歴任)をお招きし、「母校法科大学院の現状について」のテーマでお話を伺った。洞爺湖サミットは600億円強とロンドンサミットの3倍強も費用を投じた(ロンドンタイムス電)とされるが、CO2削減も拉致問題もほとんど進展しなかったのに比べると、大変実り多い会合であったと出席者一同満足して帰路についた。以下、浦川教授のお話の概要を紹介したい。

法科大学院は法の支配を再構築するために必要な3つの改革の柱の一つである人的基盤の拡充=法曹の質的充実を目的に設立された(他の2つは①制度的基盤の整備②国民的基盤の確立)。これまでの司法試験の観点のみによる選抜ではなく、法学教育、司法試験、司法研修を有機的に連携させたプロセスとしての法曹養成に特化した教育を行う機関として位置づけられている。ところが現状は、適正配置を大幅に上回る74校、定員5815名が学んでおり、教員不足、受験特化の授業、試験問題漏洩等で不適格評価の大学院が増加傾向にある(一橋大、北大、千葉大他)。

これに対し我校は法学部の定員を900名から700名に削減し、教員の法科大学院への人的シフト等を進めて適合評価を得ている。司法試験合格者3000名に対する弁護士会の抵抗は強く、合格率は年々低下し、2013年頃には24%まで落ち込むものと予想されている。このように問題は多々あるが、我が早稲田は進学者への経済的支援(最高月額30万8000円)や適切な教育により合格率は他校を大幅に上回っており、一部に批判はあるものの着々と成果は上がっていると見ている。

(下谷内 堯/記)



玉 川

7月6日(日)に20年度「総会」および「校歌百年」DVD鑑賞会を開催しました。校歌制定100周年に因んで作成されたDVDにはいままで知らなかったことも多くあり、参加者はとても興味深く鑑賞しました。総会は奥沢で評判の良いフランスレストラン「木畑亭」に場所を移し会員40名中26名が参加し、本部から柏副会長、横田事務局長にも出席していただきました。井澤さんの軽妙な司会のもとに進められ、20年度の活動計画などが発表され、これからも楽しい玉川会を目指していくことを確認し、大いに盛り上がったあと、散会しました。

(太田 隆/記)

き ぬ た

ゴールデンウィークを前にした4月22日(火)午後6時より、会員12名に土倉会長(当時)ほか3名の副会長・幹事にもご出席頂き、総勢16名が参加して講演会を開催しました。大学院創造理工学研究科建設工学専攻主任教授の中川義英博士から、「せたがやのまちづくりについて…」というタイトルで、都市計画とその実施の困難さの一端を伺うことができました。因みに中川教授は喜多見在住で当会々員でもあります。幹事としては近い将来 もう少し時間を延ばして踏み込んだお話までいただけるような会を再度持てないものかな、と感じました。講演のあとは、成城のレストランでハナシの飛び交う賑やかな懇親会を行いました。次回は、秋なかばころに開ければ良いのだが…と考えています。

(吉村 豪介/記)

さ くら

第14回さくら会は6月8日(日)18時から桜新町イタリアンレストラン『ラ・ピアンタ』にて開催。出席者総勢20名。さくら会はこれまで日曜日の昼食会を中心に行ってきましたが、一部会員の要望もあり、今回より夜の懇親会も取り入れることにいたしました。なお、引き続き女性会員よりの昼食会の要望もあり、当面、懇親会は昼にしたり、夜にしたり、といたしますが、あしからず、ご了承いただければ幸いです。

さて、今年から行っておりますさくら会の会員の方の『わが人生を語ろう』について、前回まで中瀬正一氏、前原祖彦氏、関根昌一氏、上田忠雄氏に語っていただきましたが、今回は栗山佳三氏にお願いをいたしました。お話の概略は下記の通りです。

氏は日露戦争の22年後に東京日本橋のお生まれで、日露戦争が非常に身近に感じられたとのこと。少年時代は冒険だんきち、のらくろ、海洋少年団等の当時の海洋志向の漫画雑誌にかこまれて育ち、当然ながら海軍兵学校を受験されたこと、その後、第2次世界大戦、終戦、東条のピストル自殺失敗等による当時の日本の最高指導者としての往生際の悪さに義憤を感じた等。最近の話では地震のこわさについても一言。阪神大震災後関西では電気、水道、ガスもとまったが、時の村山首相は他国からの援助を一切断った話。翻って、東京で大地震があったらどうだったか、地震対策についても一言あり。以上、大変有益なお話をいただきましたこと感謝いたします。また江原世話人より俳句の会の近況報告がありました。

次のさくら会は10月11日(土曜日)11:30より『ラ・ピアンタ』でおこないます。次回の『わが人生を語る』は若林昭男氏に語っていただきます。

(矢田 廣/記)

千 歳

6月21日(土)、元幹事長の前原さん、同事務局長の寺澤さん、現副会長の川村さんの特別参加をいただいて開催。

1.「世田谷文学館」常設展見学会。16時、京王線芦花公園駅に集合。参加者12名。徒歩5分で展示会場へ。明治・大正・昭和にかけて世田谷沿線に居を構えて活躍した作家達の作品、生活環境の展示品、カラクリ人形による作品の実演等を約1時間かけて観賞、楽しいひとときを過ごした。終わってすぐ近くの懇親会会場へ。

2.「サンマルク芦花公園店」。17時半~20時、参加者16名。豊田幹事の司会により小生が5月24日開催の総会における本部役員の人事に関して、当会会員にかかわるものを中心に報告。続いて鈴木世話人より秋の稲門祭についての具体的な説明、福引券購入等協力の要請。蒲原幹事の会計報告あり。前会長・土倉さんの乾杯音頭で懇親会スタート。初参加の矢野貞行さん(昭42商)、薄井好雄さん(昭47商)の自己紹介のあと、フランス料理とワインとビールで盃を交わしながら、政界談義、後期高齢者の年金医療問題、趣味の話などに花を咲かせての楽しいひととき。蒲原さんから「趣味と健康」というテーマで10分間スピーチ。特にカラオケの効用については医学的にもハイレベルの内容でビックリ! あっという間に予定時間が過ぎて、豊田幹事から次回見学会として府中サントリー・ビール工場を考慮中という話があり、鈴木世話人の締めで次回の、元気な再会を約して散会した。

(武藤 哲/記)

会員の広場

十羽の小鳥が海を渡る 探鳥で知る自然の摂理

岩沙 脩 (昭和二九政経)



十三年前に始めた探鳥は、所属する二つの団体の主催する探鳥会に月に数回参加しているが、時にはマイフィールドと称して近くの多摩川河畔を歩くこともある。一人で歩くときと団体の場合では、熟練度の違いや、何といつても目玉の数の多いことから確認する鳥の種数も二倍から三倍の違いとなる。



探鳥の楽しみ方は人によって違うと思うが、私の経験を通じてその一端を紹介してみたい。先ず挙げたいことは、自然界の摂理を身をもって学んだということである。地球という星は四十億年を経て様々な生物を育みながら、共存と循環の仕組みを創り上げたといわれている。



自然界の底辺には落ち葉や動物の死骸、排泄物などが堆積するが、それらもバクテリアや菌類によって分解され土となる。その上に植物が茂り虫や小鳥、昆虫が生活を営み、その上にこれらを採餌する鳥類があつて、その頂点に立つのがワシ、タカなどの猛禽類とされている。逆説的に言えば、ワシやタカが存在する地域は最も理想的な自然環境とされ



ているのである。雀より小さい全長十センチほど、重量にして十羽程度の小鳥が海を渡つて来るのをご存知だろうか。方向感覚はどうして得ているのだろうか。カリフォルニアのある研究所は実験の結果、北極星が目安になるとしているが、一説によれば彼等には地磁気を感知する特殊能力があるとも言われている。その小鳥たちは秋の渡りの時期が来ると、渡来時に降り立った地に再び立ち寄り、あの小枝をくわえて飛び立つという。不可思議な鳥界を知るにつけ、私は密かに有り得べしと思う。

子育ての実態を見聞きするにつけ、彼等に学ぶ所の多いことに気が付く。或る時、巣箱の周辺で異様なシジュウカラの鳴き声に気が付いた。巣立ちに先立つての何日間、親鳥は雛に餌を与えることはしないらしい。雛がひもじさに

耐えかねて自立するのを、親鳥は近くの梢に留まり雛の巣立ちを促すように声援を送っていたのである。

親という字を解析すると、樹に留まりじつと見守る親鳥の行動を意味するが、親離れ子離れしない昨今の人間模様との違いを感じるのではないだろうか。

限られた紙面のため、探鳥の素晴らしさのほんの一面しか紹介出来ないのが心残りである。



(ウオーキング部会会員)

釣りキチ流転記

岩隈 興和

(昭和四三年教育)

早稲田を卒業し夢を持って入った大手精密機器会社で第一線の営業職に配属され、バリバリ頑張るぞと意気込んだところが現実の営業活動とは顧客の連夜の接待また接待、当時のトルコ風呂やキャバレー

一へ月数回通った。純真で潔癖？であった小生には継続不可能。昼間はただっ広い造船所や鉄鋼メーカーのヤードを寒風酷暑に耐えながらトポトポ営業活動し、夜は姉ちゃんがいるお風呂をお客が楽しんでる間待合室でポツリと待つこと九十分、終つて厚化粧の年増ホステスに囲まれキャバレーで馬鹿騒ぎ。こんな日々が延々と続く。こんなハズじゃなかった。

天性の釣り好きで、時には会社の派手な看板車で荷物室に布団を敷いて夜中に同趣味の顧客の自宅まで迎に行き、南伊豆へ同行する接待もあった。嫌気がさし始めた営業活動の最中に不動産会社の社長と知り合つて誘われた伊豆七島八丈島、フリージアの花咲き乱れ美しい島、魚も豊富で一目惚れ。それが流転の始まりだった。

さつさと会社を辞め漁師生活へ。春はトビウオの流し網漁、夏はムロアジの棒網漁、刺網でイセエビ、セミエビ、時には底釣りで青鯛、オナガ鯛、青ぶり、赤ぶり、引き釣りで真力ツオ、キツネカツオ漁など、いや〜これは天職かと

思った。とはいえシケで出船できない日も多く、既に同窓の文学部卒の嫁さんも子供もいて漁師だけでは食えない。

そのうち何回か手伝った不動産会社の営業の因果で筋者に追われる身になってカナダへ逃避行。事務機器会社や漁港周辺で仕事を探したが、当時プエルトリコやメキシコからの不法就労者の流入がカナダでも社会問題になっており、まともな条件で就労がかわらない。しばらくパンクーパー島周辺のサーモン釣りに没頭して数カ月。

しかし家族が心配になり帰国、その苦節数年じつと愚痴を言



わす待っていた家内には今も頭が上がらない。帰国後、大手釣具メーカーなどに勤務したが、最終的にはニュージーランドの食品会社に長く勤務することになった。外資は休暇がしつかり取れて釣行する時間を充分確保できた。この会社に勤務中はNZでの巨魚は勿論国内では主に西は御前崎から北は大洗の間は特に多種の釣行を繰り返した。年を加えるごとに釣の趣向が変化して繊細仕掛けで仕留める真鯛やヒラメが主たる狙い物になり、その仕掛け作りに工夫を重ね、道具の選択をその釣り専用に集中して開始。これが隠居後の夜なべ趣味にもなる訳で、さんざん工夫した仕掛けを持ってさあ今度いつどこへ行くか。

親しい船長や釣友に電話入れたり、船宿のブログを検索したりして情報を集めいよいよ釣行決行。これが現在の小生の長年の流転生活の後の至福の釣り三昧の日々。枯れて体が動かなくなるまで釣行続けます。

(釣り部会・沖釣り班)

趣味の会

部会名	代表	連絡先	会員数	備考
ゴルフ	森 昌治	TEL・FAX3414-6219	95名	年4回コンペ・年会費2,000円
スポーツ観戦	岸田 正和	TEL・FAX3704-2642	59名	春秋早慶戦応援他・年会費500円
麻雀	下谷内 堯	TEL0705-712-2651	54名	月1回大会・年会費1,000円
ボウリング	武藤 哲	TEL・FAX3302-2607	18名	月1回大会・オオクラボウルで
釣り	柴田 昇	TEL3700-1290 FAX3567-3318	33名	渓流釣り・船沖釣り年会費1,000円
食べ歩き	大須賀 肇	TEL・FAX3309-0688	63名	年4回例会・年会費1,000円
囲碁将棋	矢田 廣	TEL3700-1378 FAX3700-1388	29名	年4回例会・対外試合2回
カラオケ	蒲原 信一	TEL・FAX3307-8368	45名	年5回例会・年会費1,000円
ウォーキング	江原 利次	TEL・FAX5760-7118	33名	月1回例会・年会費1,000円
写真	種谷 鴻成	TEL・FAX5433-7052	18名	年6回例会・年会費1,000円
パソコン	荒井 清	TEL5707-5678 FAX3703-4228	25名	パソコン勉強会・年会費1,000円
芸術芸能鑑賞	鈴木 宏治	TEL・FAX3307-2201	23名	通信費1,000円

ブロック会

ブロック	代表	沿線〔参考〕	町名
A・西北会	松浦晋三郎	京王線代田橋～下高井戸 井の頭線池の上～明大前	北沢・大原・羽根木・松原・代沢・代田
B・千歳会	武藤 哲	京王線桜上水～千歳烏山	千歳烏山・桜上水・上北沢・八幡山・南烏山 北烏山・給田・上祖師谷・粕谷
C・けやき会	下谷内 堯	小田急線梅丘～千歳船橋	梅丘・豪徳寺・経堂・宮坂・桜丘・桜・船橋・赤堤
D・キャロット会	冨塚 兆彌	田園都市線池尻大橋～駒沢公園	池尻・三宿・野沢・太子堂・若林・三軒茶屋 上馬・下馬・駒沢・駒沢公園・世田谷
E・きぬた会	吉村 豪介	小田急線祖師谷大蔵～喜多見	成城・砧・祖師谷・千歳台・大蔵・砧公園・喜多見
F・玉川会	浜田 康夫	大井町線自由が丘～二子玉川	奥沢・尾山台・中町・上野毛・等々力・玉川台 玉川・宇奈根・玉川田園調布・瀬田・岡本・鎌田・玉堤
G・さくら会	矢田 廣	田園都市線駒沢大学～用賀	上用賀・用賀・新町・桜新町・弦巻・深沢

新入会・退会・休会・住所変更のお知らせ

「名簿（平成18年4月発行）会報35・36・37号記載分」以降（敬称略）

〔新入会員〕

氏名	卒年・学部	郵便番号	住所	電話	FAX
佐伯 憲一	平10 文	個人情報につき不掲載			
倉田富士男	昭41 商				
小林昭一郎	昭41 政経				

〔退会会員〕

氏名	卒年・学部	理由	氏名	卒年・学部	理由
井上 肇	昭28 政経		渡辺 八郎	昭36 文	
大塚 一行	昭35 商		岡部 清策	昭25 商	
小野 敏夫	昭34 政経		渡辺 武	昭38 政経	
小池 毅	昭31 商		武田 信夫	昭27 政経	
高松 和彦	平10 商		江口 善文	昭13 理工	
中村 雄一	昭27 政経		寺井 順一	昭52 文	
藤本理恵子	昭52 文		長田 孝之	昭28 商	
山本 茂男	昭27 商				



〔訂正・住所変更〕

犀川千代子	
西村 准也	

事務局だより

(第1回)

紙面でもご報告の通り、世田谷稲門会は執行部が一新、それに併せて事務局スタッフも新しい陣容でスタートすることになりました。会員の皆様からの入退受付業務を始め、各種催物に関する様々なご案内、お問い合わせ等など、会員の皆様との“窓口業務”が、われわれ事務局の大切な役目。それだけにその大役を全うし、少しでも多くの会員の方々にご満足頂けたらと、新任スタッフ一同大いに張り切っているところです。

そんな「会員の皆様との窓口」という役割を果たすため、今回の会報を手始めに「事務局だよりの小欄を頂戴することになりました。これからは、この小スペースを通して、事務局が関わる世田谷稲門会役員会の様子や会員総会、納涼会、新年会他さまざまな催し物の裏側、そして業務上のエピソード等も交え、会の活動内容を少しでもご理解頂けるよう情報公開していくこうと、スタッフ一同知恵を絞っています。

どうか会員の皆さんからも、今後取り上げる記事に対するご要望、ご意見、ご批判等、何でも結構です。どしどしお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

（事務局スタッフ）
横田・島田・浜田・加藤

ホームページ便り

ホームページを担当させていただきました。よろしくお願いいたします。

早速更新させていただきました。これまで

URL: <http://www.ne.jp/asa>
<http://setagaya/tomonkai/> から
<http://setagayatounonkai.com> に代わりますが、

八月末までの間は従来のページと並存しながら、内容の充実を図りつつ順次更新頻度を増やし、会員相互のコミュニケーションの場としてご利用いただくべく心がけたと思います。

（連絡先 世話人／荒井 清）

内容についても、たとえば事務局だよりや、会員の部屋などのページ数を増やすなどして、内容の充実を図って、ご要望にお答えするとともに、新規会員の増強につなげられれば、と考えています。皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

「世田谷稲門会のロゴを公募」
ホームページなどで使用する世田谷稲門会にふさわしい斬新なデザインのロゴを公募します。

応募資格者は会員および入会予定の方。
応募期限は九月三十日。一人何編でも結構です。奮って応募ください。

Fax 3703-4228 または
bnew@setagayatounonkai.com

新広報体制

役員改選に伴う幹事会で新しい広報担当体制が左記の通り決まりました。新装のホームページと連動して会報編集に当たりますので、よろしくお願いたします。

- 寺島 邦夫(常任幹事：広報統括)
- 荒井 清(常任幹事：ホームページ担当)
- 岩村 明彦(原稿取りまとめ担当)
- 大内 秀行(取材執筆担当)

責任者を早速に設け、情報網の拡充を、また、